

福祉科「社会福祉基礎」学習指導案

広島県立黒瀬高等学校（教諭 坂本 雄哉）

本学習指導案のポイント（高校教育指導課指導主事 宮本 洋子）

本学習指導案では、介護実践に関連する諸制度の概要と現状について理解させ、これら諸制度に関する課題について思考することで、将来、自身の生活や福祉分野における介護実践と結びつけるよう工夫された授業展開となっています。

生徒が教科書だけではなく、ICT機器を活用し、厚生労働省や地方公共団体の示すリーフレットなどを活用することで、現在の制度の現状や課題について自分事として捉え、学びを深めることができるよう工夫されています。

1 実施日：令和6年11月19日（火）（4時間目：13時00分～13時50分（50分））

2 学年・学級：福祉科 第2学年3組（17名）

3 単元名：生活を支える社会保障制度 カ 介護実践に関連する諸制度

4 単元について

（1）単元観

本単元では、人間の尊厳と自立に関わる権利擁護と個人情報保護など介護実践に関連する諸制度について、医療保険制度や公的年金制度などの保険や医療の諸制度、医療関係者、医療関係施設、教育や育児・介護休業制度も含めた雇用関係、住宅支援、司法と福祉の連携、成年後見、虐待防止、日常生活自立支援事業、個人情報保護、ボランティアや福祉人材育成などに関する制度について扱うことが求められている。そのため、介護実践に関連する諸制度の概要と現状について理解させたい。また、これら諸制度に関する課題について思考することで、将来、自身の生活や福祉分野における介護実践と結びつけ、主体的に自身の幸福追求とともに職業人に求められる倫理観を踏まえ、課題を解決する力を身に付けさせたい。

（2）生徒観

本学級は、男子8名・女子9名の計17名のクラスである。全員が介護福祉士国家資格の取得を目指す福祉系高校のカリキュラムを受講する生徒である。クラスの81%は卒業後に福祉の進路を希望しており、社会福祉士などの相談職を希望する生徒もいる。

生徒は、社会保障制度の意義と役割、高齢者福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者総合支援制度を学習済みであるが、1年次のテストの平均点は55点で当該科目をあまり得意としていない。科目「家庭総合」において、各ライフステージにおける課題や、生活の営みに必要な金銭について、税金や社会保険料などの支出があることを学習済みである。また、アンケートにおいて全生徒が社会保障制度の学習を苦手としており、この単元の学習を難しいと捉えている。しかし、全生徒がこの単元の勉強が将来の生活に役立つと考えており、興味関心の高さが伺える。

授業においては、発問に対してすぐに自身の考えをまとめて答えることは難しいが、グループワークなど協働的な学習を行うと活発的な意見交換が見られる。しかし、生徒同士で思考を深めることは難しく、発問により、思考を深める必要がある。一生懸命に話を聞く姿勢がみられ、生徒にとっては難しい単元だが理解しようとする姿が見られる。

（3）指導観

本単元は、介護実践における諸制度を扱うため、制度の概要を理解し活用することが必須となる。また、生徒自身の将来の生活や職業に直結する内容である。しかし、多くの生徒が苦手と感じている内容でもある。そのため、本単元では、積極的に生徒自身の生活や地域と結びつけ、事例をグループで取り組ませ、自身の考えを整理し、他者と対話することで主体的な学びを促す。また、教科書だけではなく、ICT機器を活用し、厚生労働省や地方公共団体の示すリーフレットなどを活用することで、現在の制度の現状や課題について思考させたい。また、これらの諸制度を生徒自身の生活や職業へどのように活用するかを関連させることで主体的かつ協働的に取り組ませたい。

5 単元の目標

- （1）介護実践に関連する諸制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
- （2）介護実践に関連する諸制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的に解決する。
- （3）介護実践に関連する諸制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

6 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護実践に関連する諸制度の概要と現状について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	介護実践に関連する諸制度の現状に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて創造的かつ適切に解決している。	介護実践に関連する諸制度を地域や生活と関連させて自ら学び、主体的かつ協働的に忍耐強く取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（全16時間）

学習 内容	字数	評価			
		知	思	主	評価方法

社会保険制度の概要について	2	○	◎	日本の社会保険制度の概要と現状について理解できる。 社会保険制度の現状に関する課題を発見し、考えることができる。	定期考査 観察法ワークシート
医療保険について	2	◎		医療保険制度の概要と現状について理解し、関連する技術を身に付けている。	
年金保険について	2	◎		年金保険制度の概要と現状について理解し、関連する技術を身に付けている。	定期考査
雇用保険について【本時】	1	○	◎	雇用保険の概要と現状について理解できる。 保険事故の生じた生活を実生活と関連させ、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。	定期考査 発表 ワークシート
～省略～					

8 本時の展開

(1) 本時の目標

雇用保険のしくみを理解するとともに、自分自身の今後の生活において雇用保険を活用した生活をイメージすることができる。

(2) 観点別評価基準

	「十分満足できる」 A	「おおむね満足できる」 B	「努力を要する」 C
知	雇用保険の性質、しくみなど制度の全体像を十分理解し、労働者の生活と雇用を支えている制度を具体的に理解している。	雇用保険の性質、しくみなど制度の全体像をおおむね理解し、制度が労働者の生活と雇用を支えていることを理解している。	雇用保険の性質、しくみなど制度の全体像を理解できていない。
主体的	雇用保険に関する保険事故の生じる背景を理解し、その課題の解消についてどのような手立てを取ればよいか、生活をより安定させるためにどのように自身の生活設計をすればよいかを主体的かつ協働的に忍耐強く取り組もうとしている。	雇用保険に関する保険事故の生じる背景を理解し、その課題の解消についてどのような手立てを取ればよいかを主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	雇用保険に関する保険事故の生じる背景を理解し、その課題の解消についてどのような手立てを取ればよいかを主体的かつ協働的に取り組むに至らない。

(1) 準備物

教科書 社会福祉基礎（実教出版） ファイル ワークシート

(2) 学習の展開（50分）

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入	- 出欠確認 - 本時の目標と流れを確認する。	出欠確認 本時の目標、流れを示す。	
展開 35分	- 雇用保険はどのような状況で活用できるものかを考える。 - 事例検討 - 雇用保険の保険事故に該当する事例について考える。 - Aさんが生活するための課題（過去・現在・未来） - 個人で考える。 - イメージマップの説明を聞く。 - グループに分かれ、課題を持ち寄り、イメージマップの作成をする。 ①白紙に課題を並べ、その周りにその課題がもたらす生活への影響を書く。 ②生活への影響の解決策を書く。 - グループ間での共有をする。 - 考えた解決策が雇用保険で対応できないか教科書をもとに考える。 - 育児休業給付の支給額を算出する。 - 雇用保険のしくみについて理解する。	- ワークシートを配付し、授業前の生徒自身の雇用保険に対する認識を把握させる。 - 事例における課題を考えさせる。現在のみではなく、過去から未来までに着目させる。 - 生徒が幅広い生活の影響、解決策を考えられるよう、イメージマップ作成の例を挙げる。 - 他者の意見をもとに自身の考えを改善し、協働的な学びを促す。 - 学びが深まらないグループへ机間指導にて以下の視点を考えさせる。 （失業 ・ 資格取得 ・ 収入 ・ 支出 ・ パートナーの選択 ・ 貯蓄 ・ 親 ・ 転職 ・ 育児休業の選択 ・ 復職） - 上記の視点を考えさせる上で、必要に応じて、厚労省の示す資料（資料①②）をもとに求職者給付の受給期間、教育訓練給付金の支給の具体を調べさせる。 - 教科書をもとに、育児休業給付の支給対象を理解させる。 - 厚労省の示す育児休業の資料（資料③）をもとに、育児休業給付の具体を理解させる。 - 教科書と資料③をもとに雇用保険の性質や手続き方法について理解させる。	雇用保険制度の概要と現状について理解している。 【知識・技術】 （定期考査） 今後の自身の生活をより安定させるためにどのように自身の生活設計をすればよいかを主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 （発表、ワークシート）
まとめ 10分	- 職業人として求められる視点を理解する。 - 今後の自身の生活に雇用保険をどのように活用し、生活をするか考える。 - 発表する。 - 振り返り	- 雇用保険が自身の生活だけでなく、地域社会を支える制度であることを意識させる。 - 主体的な学びとなるよう、得られた知識及び技術をもとに今後の生活において雇用保険を活用し、上手に生活を送るか考えさせるとともに地域社会において国民を支える制度であることを考えさせる。また、考えた内容を他者と共有することで対話的な深い学びを促し、学習活動の充実を図る。	

